

報告事項 1

平成28年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成27年6月4日

教 職 員 課

平成28年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について

1 志願状況

受験区分	採用予定者数 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	障害者大学推薦特別選考	大学推薦特別選考	元教諭・講師経験者特別選考	現職教諭特別選考	芸術・スポーツ特別選考	社会人特別選考	特別支援教育に関する特別選考	教職大学院修了見込者特別選考	大学院進学による採用辞退者に対する特別選考	前年度最終志願者数		
				志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	志願者数 (内数)	採用予定者数 (A)	志願者数 (B)
小学校教諭	約 700人	2,574人	3.7倍	0人	-	281人	43人	5人	7人	77人	13人	8人	700人	2,687人	3.8倍
中学校教諭	約 330人	2,158人	6.5倍	2人	24人	213人	16人	12人	13人	7人	2人	1人	330人	2,330人	7.1倍
高等学校教諭	約 300人	2,320人	7.7倍	1人	22人	109人	52人	27人	21人	-	2人	7人	330人	2,470人	7.5倍
特別支援学校教諭	約 120人	617人	5.1倍	2人	0人	82人	22人	4人	-	170人	0人	1人	120人	685人	5.7倍
養護教諭(小中)	約 30人	410人	13.7倍	0人	-	43人	5人	1人	-	-	0人	0人	40人	401人	10.0倍
養護教諭(県立)	約 10人	105人	10.5倍	0人	-	21人	2人	1人	-	-	0人	0人	10人	128人	12.8倍
栄養教諭	約 10人	100人	10.0倍	0人	-	1人	0人	0人	-	-	0人	0人	10人	113人	11.3倍
計	約1,500人	8,284人	5.5倍	5人	46人	750人	140人	50人	41人	254人	17人	17人	1,540人	8,814人	5.7倍

2 志願状況の特徴

(1) 養護教諭(小中)の志願者が増加。総志願者は8,284人で、前年度比530人減

小学校教諭は前年度比113人減、中学校教諭は前年度比172人減、高等学校教諭は前年度比150人減、特別支援学校教諭は前年度比68人減であった。

また、養護教諭(小中)は前年度比9人増であったが、養護教諭(県立)、栄養教諭は、前年度と比べて減少した。

(2) 障害者選考志願者19人

障害者大学推薦特別選考5人(中学校教諭2人、高等学校教諭1人、特別支援学校教諭2人)を含めて、障害者選考志願者は、前年度比8人減の19人であった。受験区分別では、小学校教諭2人、中学校教諭5人、高等学校教諭3人、特別支援学校教諭9人であった。

(3) 大学推薦特別選考志願者46人

「中学校教諭・数学」「中学校教諭・理科」「中学校教諭・技術」「高等学校教諭・数学」「高等学校教諭・理科」「高等学校教諭・工業」「特別支援学校教諭・技術」「特別支援学校教諭・工業(機械)」において実施する大学推薦特別選考には、前年度比22人増の46人の志願者があった。受験区分別では、中学校教諭24人、高等学校教諭22人であった。

(4) 元教諭・講師経験者特別選考志願者750人、現職教諭特別選考志願者140人

元教諭・講師経験者特別選考と現職教諭特別選考には合計で890人(昨年度比134人増)の教職経験豊富な人材が集まった。

(5) 芸術(音楽・美術)・スポーツ特別選考志願者50人

芸術(音楽・美術)・スポーツ特別選考については、志願者は50人と前年度比11人増であった。秀でた技能や実績、多彩で豊富な経験を有する人材が集まった。

(6) 社会人特別選考志願者41人

社会経験を活かし、学校の活性化を図るために導入された社会人特別選考には、41人(昨年度比1人増)の志願者があった。受験区分別では、小学校7人、中学校13人、高等学校21人であった。

(7) 特別支援教育に関する特別選考志願者254人

昨年度から導入した特別支援教育に関する特別選考には、254人(昨年度比48人減)の志願者があった。受験区分別では、志願者は、小学校教諭77人、中学校教諭7人、特別支援学校教諭170人であった。

(8) 教職大学院修了見込者特別選考志願者17人

教職大学院修了見込者特別選考には、前年度比4人減の17人の志願者があった。受験区分別では、小学校教諭13人、中学校教諭2人、高等学校教諭2人であった。

(9) 大学院進学による採用辞退者に対する特別選考志願者17人

大学院進学による採用辞退者に対する特別選考の志願者数は前年度比10人減の17人の志願者があった。受験区分別では、小学校教諭8人、中学校教諭1人、高等学校教諭7人、特別支援学校教諭1人であった。

試験会場

- ・ 第1次試験1日目 平成27年7月18日(土) 愛知県立旭丘高等学校始め12会場の予定
- ・ 第2次試験1日目 平成27年8月18日(火) 愛知県立明和高等学校始め13会場の予定
- ・ 第2次試験2日目 平成27年8月19日(水) 愛知県立名古屋南高等学校始め16会場の予定

3 多彩な選考方法等の実施

(1) 昨年度の補欠者に対する特別選考

「平成27年度愛知県公立学校教員採用選考試験」を受験し、選考結果が「補欠」であった人が、「平成27年度愛知県公立学校教員採用選考試験」のときと同一の受験区分・教科(科目)で受験する場合は、所定の手続きにより第1次試験を免除する。

(2) 障害者選考

選考試験の実施に当たり、試験の実施方法等について、障害の種類や程度に応じた配慮を行い、障害者の雇用の拡大に積極的に努める。

(3) 障害者大学推薦特別選考

「一般選考」の受験資格に加えて、次のすべての要件を満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。

- ア 身体障害者手帳の交付を受け、その障害の程度が1級から6級までの人
- イ 自力により通勤ができ、かつ、介助者なしに教員としての職務の遂行が可能な人
- ウ 教員免許状取得のための課程許可を受けている愛知県、岐阜県及び三重県内の大学(短期大学、大学院、教職大学院を含む。)を卒業見込みの人、大学院及び専攻科に在学している人、又は大学・大学院を卒業後5年以内かつ愛知県公立学校教員採用選考試験を受験したことのある人で、在学する又は卒業した大学の学長又は学部長の推薦が得

られた人

(4) 大学推薦特別選考

「中学校教諭・数学」、「中学校教諭・理科」、「中学校教諭・技術」、「高等学校教諭・数学」、「高等学校教諭・理科」、「高等学校教諭・工業」、「特別支援学校教諭・技術」及び「特別支援学校教諭・工業(機械)」の受験区分・教科について実施する。「一般選考」の受験資格に加えて、次のすべての要件を満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。

ア 愛知県の教員として勤務することを第一志望とする人

イ 受験区分・教科に対応する教員免許状取得のための課程許可を受けている大学(短期大学、大学院を含む)を卒業見込みの人で、在学する大学の学長又は学部長の推薦が得られた人

(5) 外国語(ポルトガル語、スペイン語、中国語)堪能者選考

「小学校教諭」、「中学校教諭」及び「特別支援学校教諭」の受験区分について実施する。第1次試験の口述試験に加えて、当該外国語による面接を行う。それ以外については、一般選考と同じ。

(6) 元教諭・講師経験者特別選考

一般選考の受験資格に加えて、次のア及びイをともに満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。

ア 平成27年4月1日以降に、愛知県内の公立学校(名古屋市立学校を除く。)の職員(正規任用の教諭、養護教諭及び栄養教諭を除き、非常勤の職にある者を含む。)として勤務し、出願時に勤務する学校において所属長の推薦が得られた人

イ 次の(ア)又は(イ)において、3年以上(休職、育児休業等の期間を除く。)の勤務実績を有する人

(ア) 元教諭としての勤務実績

平成27年3月31日までに、国立大学法人が設置する学校又は公立学校において正規任用の教諭、養護教諭及び栄養教諭としての勤務実績を有すること。

(イ) 講師経験者としての勤務実績

平成20年4月1日から平成27年3月31日までの7年間に、国立大学法人が設置する学校又は公立学校において講師(非常勤の職にある者を除く。)又は養護教諭及び栄養教諭(正規任用者及び非常勤の職にある者を除く。)としての勤務実績を有すること。

(7) 介護理由退職者特別選考

「一般選考」の受験資格に加えて、次のすべての要件を満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。

ア 愛知県内の公立学校(名古屋市立学校を除く。)の正規任用教員(教諭・養護教諭・栄養教諭)であった人が、平成24年3月31日以降に、介護を理由にして退職し、出願時に退職校の校長が作成した「介護理由退職者特別選考証明書」の提出ができる人(退職時と同一校種、同一教科での出願に限る。)

イ 出願時に、退職日から3年以内の人

(8) 現職教諭特別選考

「一般選考」の受験資格に加えて、国立大学法人が設置する学校又は公立学校で正規任用の教諭、養護教諭又は栄養教諭の職にあり、平成27年4月1日現在において、3年以上(休職、

育児休業等の期間を除く。)の勤務実績を有する人は、書類選考により第1次試験を免除する。

(9) 芸術(音楽・美術)・スポーツ特別選考

「一般選考」の受験資格に加えて、芸術(音楽・美術)の分野又はスポーツの分野において次の要件を満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。なお、受験区分は問わない。

ア 芸術分野

音楽又は美術の分野において、次のいずれかに該当する人(小・中学校における実績は除く。)

(ア)平成17年7月以降に、国際レベルのコンクール、展覧会等で優秀な成績を収めた人

(イ)平成17年7月以降に、全国レベルのコンクール、展覧会等で最優秀相当の成績を収めた人

イ スポーツ分野

スポーツの分野において、次のいずれかに該当する人

(ア)平成17年7月以降に、国際規模の競技会等に日本代表選手として出場した人

国際規模の競技会等とは、オリンピック競技大会、ユニバーシアード競技大会、アジア競技大会及び原則としてオリンピック実施競技を統括する国際競技連盟が主催する世界選手権大会等

(イ)平成17年7月以降に、全国規模の競技会等において優勝した人(小・中学校における実績は除く。)

全国規模の競技会等とは、国民体育大会及び(公財)日本体育協会又は(公財)日本オリンピック委員会の加盟団体が主催する全日本選手権大会等

(10) 英語有資格者特別選考

「中学校教諭・英語」、「高等学校教諭・英語」及び「特別支援学校教諭・英語」の受験区分・教科について実施する。「一般選考」の受験資格に加えて、次のいずれかの要件を満たす人は、書類選考により第2次試験の実技試験を免除する。

ア TOEFL(国際教育交換協議会実施)において、PBT580点以上、又はiBT92点以上(平成25年7月以降の得点に限る。)を取得した人

イ TOEIC((財)国際ビジネスコミュニケーション協会実施)において、860点以上(平成25年7月以降の得点に限る。)を取得した人

ウ 実用英語検定((公財)日本英語検定協会)1級を、平成25年7月以降に取得した人

(11) 社会人特別選考

「小学校教諭」及び「中学校教諭」の受験区分並びに「高等学校教諭・数学」、「高等学校教諭・理科」、「高等学校教諭・工業」、「高等学校教諭・商業」、「高等学校教諭・情報」、「高等学校教諭・看護」、「高等学校教諭・福祉」、「高等学校教諭・水産(海洋資源)」、「高等学校教諭・水産(機関)」、「高等学校教諭・水産(情報通信)」及び「高等学校教諭・工業(デザイン)」の受験区分・教科について実施する。書類選考の結果、相当と認められた人は、第1次試験は、論文試験と口述試験を行う。「高等学校教諭」については、出願時点で受験区分・教科に対する普通免許状を所有しなくても受験できるが、合格した後、その教科の特別免許状を申請し、取得することが必要となる。

(12) 特別支援教育に関する特別選考

「小学校教諭」、「中学校教諭」及び「特別支援学校教諭」の受験区分・教科について実施する。次の要件を満たし、書類選考の結果、相当と認められた人のうち、「小学校教諭」及び「中学校教諭」の受験区分へ出願した人は、第1次試験の成績に加味する。また、「特別支援学校教諭」の受験区分へ出願した人は第1次試験においては、論文試験と口述試験を行う。

ア 「小学校教諭」及び「中学校教諭」の受験区分

一般選考の受験資格に加えて、次の要件を満たす人

(ア) 小中学校の特別支援教育担当を強く希望する人

(イ) 「盲学校教諭免許」「聾学校教諭免許」「養護学校教諭免許」について、いずれかを現に所有している人、又は、特別支援学校教諭免許について、「視覚障害者」「聴覚障害者」「知的障害者」「肢体不自由者」「病弱者」の領域のうち1領域以上が記された普通免許状を現に所有している人、又は平成28年3月31日までに取得見込みの人

イ 「特別支援学校教諭」の受験区分

一般選考の受験資格に加えて、次の要件を満たす人

(ア) 「盲学校教諭免許」「聾学校教諭免許」「養護学校教諭免許」について、そのうち2種類以上を現に所有している人、又は、特別支援学校教諭免許について、「視覚障害者」「聴覚障害者」「知的障害者」「肢体不自由者」「病弱者」の領域のうち2領域以上が記された普通免許状を現に所有している人、又は平成28年3月31日までに取得見込みの人

なお、「盲学校教諭免許」「聾学校教諭免許」「養護学校教諭免許」について、そのうち1種類を現に所有し、かつ、特別支援学校教諭免許について、「視覚障害者」「聴覚障害者」「知的障害者」「肢体不自由者」「病弱者」の領域のうち1領域以上が記された普通免許状を現に所有している人、又は平成28年3月31日までに取得見込みの人も対象となる。

(13) 教職大学院修了見込者特別選考

「一般選考」の受験資格に加えて、次の要件を満たす人は、書類選考により第1次試験を免除する。

ア 現在、教職大学院に在籍し、平成28年3月31日までに修了見込の人

イ 愛知県の教員として勤務することを第一志望とする人

(14) 大学院進学による採用辞退者に対する特別選考

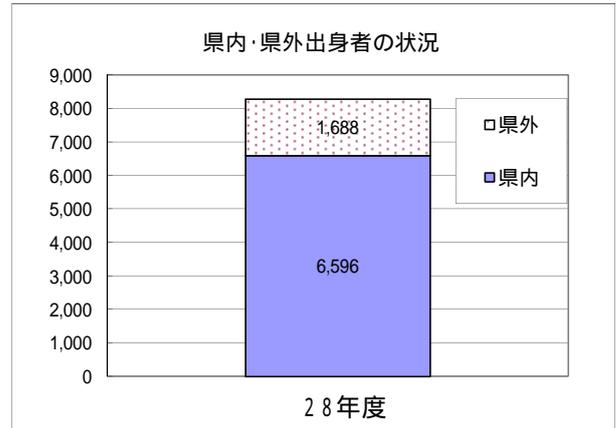
平成25年度愛知県公立学校教員採用選考試験(平成24年実施)を受験し、選考結果が「合格」で、大学院(教職大学院を含む。)進学を理由として辞退書を提出し採用を辞退した人、平成26年度愛知県公立学校教員採用選考試験(平成25年実施)を受験し、選考結果が「合格」で、大学院(教職大学院を含む。)進学又は在学を理由として辞退書を提出し採用を辞退した人、又は平成27年度愛知県公立学校教員採用選考試験(平成26年実施)を受験し、選考結果が「合格」で、大学院(教職大学院を含む。)在学を理由として辞退書を提出し採用を辞退した人を対象とする。辞退時と同一の受験区分・教科(科目)で受験する場合は、所定の手続きにより、第2次試験の口述試験(集団討議及び個人面接)での選考とする。

〔参考〕

志願者の出身地

(1) 県内・県外出身者の状況

区分	28年度(27年実施)		27年度(26年実施)	
	人員	割合	人員	割合
県内	6,596	79.6%	6,744	76.5%
県外	1,688	20.4%	2,070	23.5%



(2) 志願者の出身地

出身県		28年度(27年実施)		27年度(26年実施)		
		全区分	地区別	全区分	地区別	
北海道・東北	北海道	22	71	33	91	
	青森	7		7		
	岩手	5		6		
	宮城	6		13		
	秋田	6		7		
	山形	8		9		
	福島	17		16		
関東	茨城	23	292	19	378	
	栃木	13		16		
	群馬	19		21		
	埼玉	45		74		
	千葉	34		54		
	東京	63		82		
	神奈川	95		112		
甲信越・北陸	新潟	32	216	50	276	
	富山	14		21		
	石川	16		20		
	福井	33		40		
	山梨	18		26		
東海	岐阜	241	7,156	246	7,392	
	静岡	229		302		
	愛知	6,596		6,744		
	三重	90		100		
近畿	滋賀	45	376	65	474	
	京都	46		59		
	大阪	111		136		
	兵庫	126		141		
	奈良	25		39		
	和歌山	23		34		
中国	鳥取	6	55	12	55	
	島根	13		10		
	岡山	13		14		
	広島	18		14		
四国	山口	5	44	5	42	
	徳島	5		8		
	香川	16		9		
	愛媛	15		16		
九州・沖縄	高知	8	74	9	103	
	福岡	15		17		
	佐賀	3		5		
	長崎	10		14		
	熊本	9		12		
	大分	11		18		
	宮崎	7		9		
鹿児島	10	16				
沖縄	9	12				
外国		0		3		3
総計		8,284	8,284	8,814	8,814	

